

# 株式会社 エムウェーブ第25期事業報告書

自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

## 1 事業の概要

### (1) 事業の経過及びその成果

「エムウェーブ」及び「ビッグハット・若里市民文化ホール」は、長野オリンピックレガシーとして後世に引き継いでいくとともに、長野市の「スポーツと文化の振興」及び「産業の発展」に資することを目的とした施設です。

当社は、その指定管理者として、関係機関との連携の下、積極的な営業活動と情報発信を展開するとともに、質の高いサービスを提供し、一層の利用を促進することで、経済波及効果を創出してまいりました。また、アイススケートの競技力向上や普及促進を図るとともに、運営面では更なる効率化・合理化に努めてきたところであります。

当期においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波が幾度となく襲い、とりわけ令和4年1月からの第6波は、これまでにないレベルでの急拡大となり、長野県においても1月27日から3月6日まで「まん延防止等重点措置」が適用されるなど、年間通して貸館予約のキャンセルが相次ぎ、経営に大きな影響を受けました。

そうした中であっても、グリーンシーズンには、感染対策を講じた上で2年ぶりとなる集客イベントやコンサートが開催されたほか、キャンセルされた枠が新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場として利用されました。

また、アイスリンクシーズンには、3つの全日本の大会が開催され、延べ1万人を超える観客にお越しいただくなど、スケートの拠点としての役割を果たせたものと考えています。

当期の事業実績として、売上高は5億6,668万円となり、前期との比較では6,136万円の増加、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかった前々期と比較すると5,618万円の減少となりました。なお、長野市からは、公の施設における安定的な市民サービス提供のため、新型コロナウイルス感染症の影響による経済的損失部分について、「市がやむを得ないと認める所要額」を指定管理料の増額で対応いただいています。

販売費及び一般管理に係る営業費用は5億7,887万円で、前期と比べ貸館利用が増えた分、3,412万円の増加となりました。

結果として、当期の営業利益は1,219万円の赤字損失、営業外収支を含めた税引前当期利益は990万円の赤字損失となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
全体 総括	23期実績	750,995	622,865	619,836	3,029	
	24期実績	163,034	505,313	544,749	△39,436	
	25期実績	286,704	566,681	578,875	△12,195	
	増減	23期比	△464,291	△56,184	△40,961	△15,224
		24期比	123,670	61,368	34,126	27,241

## (2) 施設部門別実績

### ア エムウェーブ部門

#### (ア) 収支実績

売上高については 3億6,213万円で、イベント等が増えた分、前期より5,308万円、前々期より1,215万円の増加となりました。

販売費・管理費等の経費については、3億7,329万円で、対前期 2,729万円の増加、対前々期 1,791万円の減少となりました。

結果として、営業利益は1,115万円の赤字損失となり、前期と比較すると2,578万円、前々期と比較すると3,007万円の改善となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
エムウェーブ	23期実績	385,696	349,977	391,204	△41,227
	24期実績	86,303	309,049	345,995	△36,946
	25期実績	123,792	362,135	373,292	△11,157
	増減	23期比	△261,904	12,158	△17,912
24期比		37,489	53,086	27,297	25,789

#### (イ) 施設見学及び売店部門

長野オリンピックミュージアムは、新型コロナウイルス感染拡大による移動自粛やイベント等の開催中止の影響を受けた一方で、オリンピックイヤーとしての展開を図りました。

東京オリンピック・パラリンピック大会に関連しては、機運醸成を図るために展示物を充実するとともに、長野市芸術館展示サロンにおいて出張展示やグッズの出張販売を実施いたしました。また、北京冬季オリンピック・パラリンピック大会に関連しては、国内外のメディアからの取材が増加し、広報宣伝効果は高かったと考えています。

見学者は 7,259人で、対前期 2,590人の増加、売店の売上は 187万円で、対前期 62万円の増加となりました。

#### (ウ) 貸館部門

貸館営業につきましては、継続的にご利用いただいている顧客への営業を含め、ビッグハットと営業面での連携を図りつつ、コンサート、展示会など大規模イベント等の誘致・開催に努めたところですが、新型コロナウイルス感染拡大により、アリーナではイベント20件がキャンセルになるなど厳しい状況でありました。

そうした中、感染対策を講じながら2年ぶりとなるイベントの開催や、新型コロナワクチン集団接種会場として利用いただきました。

売上は 5,160万円、入館者数は 6万2,004人で、対前期 4,440万円、4万2,920人の増加となりましたが、対前々期では、売上で 2,500万円、入館者数で 22万1,090人の減少となっています。

(エ) スケート部門

スケート大会につきましては、全日本スピードスケート距離別選手権大会、2022北京五輪スピードスケート日本代表選手選考競技会などの大きな大会が開催されましたが、一方で「まん延防止重点措置」適用により、長野市スケート大会が中止となるなど、売上は2,818万円、大会入場者数は無観客大会を含め 11,923人と前期と同程度となりました。

スケート入場は、「まん延防止重点措置」適用後、スケート教室16件の中止のほか、無料開放、氷の彫刻展、一般スケート利用を中止したこともあり、売上は 3,473万円、スケート入場者数はNTC利用者を含め 42,606人と、前期と比較して 520万円、1万320人の減少となりました。

エムウェブのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：144日間）

令和3年	9月9日(木)	スピードリンク製氷作業（～9月30日）
	10月1日(金)	スピードリンクオープン（全日本及び競技者受入れ）
	10月3日(日)	スピードリンクオープン（一般営業開始）
	10月3日(日)	ホッケーリンク整備 （～10月30日：全日本距離別大会期間は作業中断）
	10月31日(日)	ホッケーリンクオープン
	11月1日(月)	スケート教室受入れ開始
令和4年	3月5日(土)	営業終了
	3月16日(水)	解氷作業（3月6日～3月16日）

■無料開放（4日間）

令和3年10月3日(日)	来場者	602人
11月14日(日)	〃	2,038人
12月5日(日)	〃	2,089人
令和4年1月9日(日)	〃	1,750人

※2月（氷の彫刻展含む）及び3月の無料開放は中止

■N T C（ナショナルトレーニングセンター）

アイスリンク専有時間	187.75時間
利用選手数	延べ9,788人（うち、N T C選抜有資格者2,400人）
トレーニングルーム利用者数	延べ1,825人

■主な競技会・イベント

1	第28回全日本スピードスケート距離別選手権大会	10月22日(金)～24日(日)
2	第66回長野県高校総体スケート大会スピード競技	12月15日(水)～16日(木)
3	2022北京五輪スピードスケート日本代表選手選考競技会	12月29日(水)～31日(金)
4	第60回長野県中学校総体スピードスケート競技会	1月6日(木)～7日(金)
5	第42回全国中学校スケート大会(スピードスケート競技)(*1)	1月29日(土)～2月1日(火)
6	第20回エムウェブスピードスケート競技会(*2)	2月11日(金)～13日(日)

\*1) 全員が抗原検査(ワクチン接種者)又はP C R検査(ワクチン非接種者)実施。無観客

\*2) 全員が抗原検査(ワクチン接種者)又はP C R検査(ワクチン非接種者)実施。同行者1名のみ観戦

## ■市内小学校スケート教室

教室開催日	31日間
参加学校数	延べ48校
参加者数	延べ 6,678人

### (オ) その他

館内の広告看板営業収入については、前期比 14万円増加して 620万円となりました。

## イ ビッグハット部門

### (ア) 収支実績

売上高については2億454万円で、イベント等が増加した分、前期より828万円の増加となりましたが、前々期と比較すると6,834万円の減少となりました。

販売費・管理費等の経費については、2億558万円で、対前期682万円の増加、対前々期 2,304万円の減少となりました。

結果として、営業利益は 103万円の赤字損失となり、前期と比較すると145万円改善しましたが、前々期と比較すると4,515万円の減少となっています。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
ビッグハット	23期実績	365,299	272,888	228,632	44,256	
	24期実績	76,731	196,264	198,754	△2,490	
	<b>25期実績</b>	<b>162,912</b>	<b>204,546</b>	<b>205,583</b>	<b>△1,037</b>	
	増減	23期比	△202,387	△68,342	△23,049	△45,293
		24期比	86,181	8,282	6,829	1,453

### (イ) 貸館部門

様々な分野でのイベントの誘致・開催に努めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、アリーナでは、イベント32件が中止となるなど貸館件数の減少が大きく影響しました。そうした中、感染対策を講じながら展示会、スポーツ大会の開催のほか、新型コロナワクチン集団接種 会場として利用いただきました。

売上は 6,126万円、入館者数は 102,440人で、前期と比較して 3,690万円、8万2,160人の増加となりましたが、対前々期では、売上で6,070万円、入館者数で 17万3,540人の減少となっています。

若里市民文化ホールについては、ホールの利用件数が101件、新型コロナウイルス由来のキャンセル件数が65件、会議室等では利用件数が469件、キャンセルが36件あり、売上 1,939万円、入館者 53,453人で、対前期 146万円、1万1,260人の増加となっています。

### (ウ) スケート部門

スケート大会等につきましては、全日本アイスホッケー選手権大会や全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）が開催されましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による「まん延防止重点措置」適用後、アイスホッケーのローカル大会6件が中止となるなど、スケート大会売上は647万円、入場者数は5,262人で、前期と比較すると1,781万円、7,810人の減少となりました。

スケート入場の売上は218万円で、前期と比較して37万円の増加、スケート入場者は1,757人で前期と比較して570人の増加となりました。

ビッグハットのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

#### ■アイススケート期間（営業期間：68日間）

令和3年11月29日（月）	ホッケーリンク製氷作業（～12月12日）
12月13日（月）	ホッケーリンクオープン
令和4年2月25日（日）	営業終了
2月25日（金）	アイスリンク営業終了
3月15日（火）	解氷作業（2月26日～3月13日） 非常用電気点検（3月14日・15日）

#### ■主なイベント及び競技会

令和3年12月16日（木）～19日（日）	第89回全日本アイスホッケー選手権大会
令和4年1月29日（土）～2月1日（火）	第42回全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）（*1）

\*1）全員が抗原検査（ワクチン接種者）又はPCR検査（無接種者）実施。無観客

### (3) 営業成績及び財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
売上高	93,020	503,205	477,700	427,268	411,745	342,744	360,336	368,690	226,660
当期損益 (税引後)	△9,014	△32,767	32,162	5,041	6,673	△279	8,568	6,572	18,438
1株当り 当期損益	円 △1,502.35	円 △5,461.1	円 5,360.47	円 840.22	円 1,112.14	円 △46.52	円 1,428.05	円 1,095.37	円 3,072.95
純資産	290,986	258,219	290,382	295,423	302,096	301,817	310,385	316,957	335,395
総資産	345,709	318,346	348,281	377,501	334,536	327,694	350,694	349,387	383,298

区 分	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
売上高	626,482	643,286	628,308	648,565	677,245	627,560	644,889	663,919	639,418
当期損益 (税引後)	36,142	18,123	14,059	16,599	19,293	12,519	2,578	5,978	12,185
1株当り 当期損益	円 6,023.69	円 3,020.33	円 2,703.64	円 3,192.09	円 3,710.20	円 2,407.55	円 495.91	円 1,149.65	円 2,343.43
純資産	371,537	389,660	363,719	380,318	399,611	412,130	414,709	420,686	432,872
総資産	450,954	464,166	430,645	473,967	470,712	483,716	488,594	507,272	505,043

区 分	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期		
売上高	674,087	682,983	621,096	640,918	622,865	505,313	566,681		
当期損益 (税引後)	13,658	16,386	12,598	8,008	1,254	△32,243	△10,237		
1株当り 当期損益	円 2,626.62	円 3,151.22	円 2,422.80	円 1,540.16	円 241.19	円 △6,200.57	円 △1,968.65		
純資産	446,531	462,917	475,516	313,525	314,779	282,535	272,298		
総資産	539,002	563,713	547,772	393,314	385,087	338,210	540,549		

(注)

- 第1期は、当社設立が6月1日であり、9月30日までの4か月間です。
- 第9期から事業年度を4月1日から翌年3月31日までと変更したため、第9期は6か月間です。
- 1株当たり当期損益は、期末発行済株式の総数から算出しています。なお、発行済株式の総数については、自己株式を除いています。
- 第10期からビッグハット及び若里市民文化ホールの指定管理業務を行っています。
- 第22期において、資本金の額を3億円から9,000万円に減少するとともに、自己株式800株を消却しました。

#### (4) 設備投資の状況

- ア 東京オリンピック展示用金・銀・銅メダルを購入しました。
- イ スケートセンターへの入退場を管理するシステム用パソコンを更新しました。
- ウ アリーナ内に掲出する北京オリンピックのメダリストを記載したパネルを作成しました。

#### (5) 会社に対処すべき継続的課題

- ア 長野オリンピックレガシーとして大切な施設である「エムウェーブ」、「ビッグハット」を後世に引き継いでいくとともに、地域振興と長野の知名度・イメージ向上のための情報発信などを積極的に展開していきます。
- イ アイススケート普及のための強力なサポーターとなり、スケート競技の拠点化を進めていきます。
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、合理的、効率的な経営を行い、利用者に愛される施設となるよう、常に良質なサービスの提供と安定した黒字経営となるよう努めます。

## 2 会社の現況

### (1) 株式の状況

会社が発行する株式の総数	24,000株
発行済み株式の総数	5,200株
株主数	8名

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率(%)
長野市	3,000	57.7
長野県	600	11.5
株式会社 前川製作所	800	15.4
鹿島建物総合管理 株式会社	500	9.6
株式会社 八十二銀行	160	3.1
長野信用金庫	80	1.5
長野県農業協同組合中央会	30	0.6
長野都市ガス株式会社	30	0.6

### (2) 取締役及び監査役の氏名等 (令和4年3月31日現在)

会社における地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役会長	荻原 健 司	長野市長
代表取締役社長	滝澤 信 一	株式会社エムウェーブ (常勤)
専務取締役	倉 島 明	株式会社エムウェーブ (常勤)
取締役	尾 島 信 久	長野県教育委員会事務局教育次長
取締役	樋 代 章 平	株式会社八十二銀行常務取締役
取締役	樋 口 博	長野市副市長
取締役	下 平 嗣	長野市商工観光部長
監査役	角 澤 本 広	長野信用金庫専務理事
監査役	武 重 正 史	長野県農業協同組合中央会専務理事

(注) 当該事業期中の取締役及び監査役の異動は、次のとおりです。

#### 1 取締役就任

令和3年6月30日付けで樋代章平氏、下平嗣氏及び倉島明氏が、令和3年11月29日付けで荻原健司氏が、新たに就任されました。

#### 2 取締役退任

令和3年3月31日付けで丸山陽一氏及び寺澤正人氏が、令和3年6月25日付けで佐藤信司氏が、令和3年11月10日付けで加藤久雄氏が、それぞれ退任されました。



(3) 従業員の状況 (役員を除く。)

人 数		平均年齢	平均勤続年数
男 性	6名	55歳5月	8年5か月
女 性	5名		